

# 税の作文表彰式



▲松山 実音さん  
(駅通)



▲村井 雅さん  
(梅田)



▲松山 ナオさん  
(平原)

税への関心と理解を深めてもらうため、税を考える週間実行委員会が募集した平成29年度中学生の「税についての作文」表彰式が、11月11日、玉名市で行われ、荒尾・玉名管内の応募総数1,613点の中から町内在住の3人が各賞に選ばれました。

## 【南九州地区納税貯蓄組合連合会会長賞】

松山 実音さん(玉名高等学校附属中3年)

## 【未来へつなぐ税で支え合う心】

## 【長洲町長賞】

村井 雅さん(長洲中3年)

## 【税金からつくる未来の希望】

## 【長洲町教育長賞】

松山 ナオさん(腹袋中3年)

## 【私たちのくらしを守る税】

ここでは、南九州地区納税貯蓄組合連合会会長賞に選ばれた松山実音さんの作文を紹介します。

## 「未来へつなぐ税で支え合う心」

玉名高等学校附属中学校  
3年 松山 実音

毎日を平穩に過ごしたいと思っっている人は多い。私もそのうちの一人だ。しかし、その平穩が崩れてしまうことがある。

先月のことだ。夜に突然、電話が鳴った。それは祖母からだ。しかも、いつもなら祖母がとっくに寝ている時間だ。受話器をとる前に、不安がよぎった。

「もしもし?」  
受話器の向こうからは、とても遠くから話しているように聞き取りづらく、何だかいつもと違うような祖母の声が聞こえてきた。

「もしもし……。歯茎からね、血が……止まらない……」

夕食のときに歯を痛めてしまったらしく、出血が止まらないのだと祖母は言った。祖母は心臓病の薬を服用していて、その作用で血が止まりにくい。しばらくは自分で止血していたが、あまりに出血するのでこわくなったという。

私は母と夜間に診てもらえる病院を探した。いくつかに問い合わせたうちの一件が、時間外ではあったが診てくれるということだった。急いで祖母を迎えに行く、病院で止血の処置をしてもらい、大事に至らずに済んだ。

今も歯の治療に通っている祖母が言う。「健康保険があるけん、安心して治療できる。感謝せんといけんね。」

祖母が病院で支払っている医療費は、実際にかかった費用の一部だ。残りは健康保険から支出されている。この健康保険からの支出をたどっていくと、私たちが納めている保険料以外に地方税と国税から支出されている。自己負担額が少なくて、しっかりと医療を受けることができる。税に助けてもらったことを実感した出来事だった。

祖父や祖母が高齢であるため、生活のあらゆる面で二人が不自由さを感じたり、私たち家族などのサポートがなければ日常生活を送りづらいことがある。そうした立場の人々をしっかり支えていくのも税の役割だ。医療保険などの社会保障、高齢者や障害を持つ人々への社会福祉、介護にも税が活用されている。

今後ますます進む少子高齢化社会。いずれ私たちが本格的に担う未来がやってくるのだ。この国の一人一人が安心して年を重ね、サポートを受けることのできる社会。誰もが心身共に安心して暮らすことのできる社会。そんな社会を、私たち若い世代がしっかりと引き継ぎ、支え、そして次世代へとバトンを渡さなくてはならない。そのためには、人任せでも無関心でもいられない。私たち一人一人が社会を支えている税金について関心を持ち、公平な負担や適切な使い方を自ら考える必要がある。今日も様々な場面で、誰かがしっかりと支えられ、平穩な日々の中を生きている。これが、税とその根底にある「支え合う心」によって成り立っているということを、私たちは忘れてはならない。